



ブックハンティング写真 (詳細 7 p)

目次

愛媛大学鈴鹿文庫に関わるようになって.....	1
学生アルバイト&図書館職員によるおススメ本紹介.....	2
新規収蔵『三輪田米山六曲一双屏風』.....	7
報告：ブックハンティング2011.....	8
報告：大学祭2011.....	9
図書館サポーターのつれづれ活動記録.....	10
C i N i i リニューアルのお知らせ.....	11
図書館日誌.....	12

愛媛大学鈴鹿文庫に関わるようになって

教育学部准教授 小助川 元太

私は愛媛大学に勤めて2年足らずだが、赴任当初、愛媛大学の図書館に「鈴鹿文庫」があると聞いて、「あの『鈴鹿本今昔物語集』の鈴鹿家の蔵書？」と驚いたのを覚えている。『鈴鹿本今昔物語集』とは、今昔物語集の中でも最も古い伝本であり、平成3年（1991）に京都の吉田神社の社家である鈴鹿家から京都大学に寄贈され、平成8年（1996）に国宝に指定されたものである。この『鈴鹿本今昔物語集』は、もともと吉田神社の神職で、伴信友や平田篤胤らとも親交のあった国学者鈴鹿連胤（^{つらたね}1795-1871）が奈良で手に入れたものであるという。その連胤や連胤の曾孫で国文学者の鈴鹿三七（1888-1967）の蔵書が、昭和53年（1978）に愛媛大学に入った。これが愛媛大学鈴鹿文庫である。その設置の経緯や書物の価値の高さについては『図書館だより』第4号（1978年3月）に詳しいので、ここでは繰り返さない。

さて、幸いにして赴任1年目から愛媛大学鈴鹿文庫に関わる立場となったお陰で、その貴重な蔵書に接する機会が増えた。こういった一つの家に伝来した蔵書の場合、書物の巻末に書かれた、いわゆる「奥書」が、書物の素性を知る重要な手懸かりとなるのであるが、実際に読んでみると、それ以外にもいろいろな発見があって、なかなか面白いものである。

たとえば、蔵書の中には、愛媛大学の所蔵となったことにより、思わぬ里帰りをしたものがあつた。『式子内親王家集 全』（請求記号911.1/su61）は、大正6年（1917）9月に麻田照道なる人物が書写したテキス

トだが、奥書を読むと、照道が松山在住の折、師である内山直枝（秋山真之の従兄）が所有する本を書写したものであることがわかる。おそらくは三七がその後照道から手に入れたのであろう。また、大洲出身の国学者矢野玄道の『伯家問答』（請求記号121/su4/1-2）は、慶応元年（1865）に玄道の門人石丸忠胤が京都寺町で書写した本を、大正6年1月に東陵学人（三七か？）が松山の書肆にて手に入れたものであつた。つまり、これらの書物は半世紀以上の歳月を経て、故郷松山に戻ってきたということになる。これらは、鈴鹿家の蔵書と愛媛・松山との縁が決して浅くはなかつたことを示してくれている。

さて、愛媛大学鈴鹿文庫には、諸本の中でも重要なテキストの一つとして知られている『鈴鹿本大和物語』（請求記号913/su14）のような有名なものもあるが、愛媛大学鈴鹿文庫の存在自体がそれほど知られていないためか、所蔵本の多くが、その価値の高さにもかかわらず、あまり利用されていないというのが現状である。幸いなことに、現在、国文学研究資料館による撮影作業が進んでおり、その鮮明な画像を図書館のHPで見ることができるようになっている。撮影に関わっている者の1人として、今後国文学研究のみならず、文化史や地方史、思想史などさまざまな分野の研究において、愛媛大学の鈴鹿文庫が大いに利用されることを期待したい。

学生アルバイト&図書館職員による

おすすめ本紹介

「悪人」

吉田修一著 朝日新聞社、2007

請求記号：913.6/YO

所在：中央館 3階1閲覧室

昔から見てきたテレビや漫画の中の悪者は、格好良くスタイリッシュな正義の味方と比べて間が抜けていてドジばかりで、三枚目的な色合いが濃いヤツらばかりだったように思う。

親玉クラスになると、それなりの外見と内面を伴っている強者もいることはいる。しかしそんな彼らも、弱きを助け世界を救う使命を帯びたヒーローの前では、所詮越えられていく試練にしか過ぎない。闇の魅力を帯びた悪の強敵も有象無象のザコ敵も、等しく平和のために消えてしまう運命にある。

だが、この作品には正義を掲げるヒーローも、歪んだ理想に殉じ世の平穩の土台となる悪役も出てはこない。物語を作るのは、矮小で臆病な「悪人」たちと、守ってくれる存在を欠いた力無き「弱者」たちだけなのだ。

人間の醜さをその身で体現している、道徳観や倫理観の著しく欠如した若者たち。自らの手で人を殺めながら、罪から逃れ続けている犯罪者。「悪」の部類に区分けされる彼らは、しかし自らの判断と行動を毅然とした態度や決意で選び取っている訳ではない。あくまでも、どこまでも人間的な弱さに振り回され、気が付いてみれば望むと望まざるに関わらずにそうなってしまうような、「強さ」とは無縁な只の人にはしか過ぎないのであ

善悪の彼岸を越えて

法文学部 人文学科
学生アルバイト 高橋 亮

る。

そんな悪役に痛めつけられ苛まれる「弱者」たちも、そんな上辺の虚勢と虚栄に満ちた相手を頼るしかない。自らを守る術も力もなく、身の回りには曝される脅威や孤独から救ってくれる正義の味方もいない。だからこそ、例えその人が結局は自分のことのみしか眼中にない人であったとしても、彼らは支えと救いを求め続けてしまう。

救世主も絶対的な能力を持ったスーパーヒーローも存在しない、悪意と害意とやりきれなさに満ち満ちた、針の筵のような冷たい世界。だからこそ、人は他人の善意にすがり、相手の好意を信じ、自分以外の存在に依る辺を求めようとする。感情を擦り切らせ、摩耗させ、ふとした瞬間に両側を隔てる薄皮のような一線を踏み越えてしまう。

それでも、この作品の中で「悪人」や「弱者」たちはもがき続ける。助けの声を上げる中で聞こえてくる同じ声に応えたり、堪えようの無い苦痛の果てに生きる意義を見出したりすることを試みる。苦境に立たされた者が、暗闇の先に垣間見た光景や思い。ここに到ってそれは、真の感情や揺るぎない真理にも繋がる意味を含み始める。

闇の中に僅かであれ道を見つけようとする者が描かれる中で、もはや善と悪といった概念は真っ先に問われるべき対象ではない。なぜなら、そこでその瞬間に詠われているのは、無私の境地に迫らなければならない愛する人への「想い」や、荒野と似た人生を歩み続けていくための「強さ」であるのだから。

「西の魔女が死んだ」

梨木香歩著 新潮社, 2001.

請求記号: 913.6/NA

所在: 中央館 3階1閲覧室

4月から図書館補助員として図書館で働かせていただいている阿部です。私がおすすめする本は2冊あります。1つは大学図書館にもある梨木香歩さんの『西の魔女が死んだ』, 2つめは市立図書館にある佐野由美さんの『パタンの空より——ネパール滞在日記』です。

前者は高校時代に映画を見る機会があり、その柔らかい世界観にはまってから本を買いに走りました。少しばかり背伸びをしている少女の心の成長と、優しく正すおばあちゃんとの生活はとても心に響く、形のない何かを宿っていました。しばらくは「このおばあちゃんみたいになる!!」と鼻息荒くハーブの本を読み、轟沈していた若いころが懐かしく感じられます。何も余計なものを求めない、自然で緩やかな時間の流れを感じられる内容なので、ティー・タイムのときにでも読んでみてはいかがでしょうか。とても羨ましい生き方をしているおばあちゃんと、少しばかり苦みのあるルッコラのようなストーリー展開はきっと日頃の疲れを忘れられるでしょう。

後者も高校時代に読んだ本なのですが、これは保健委員らしく保健室の掃除をしていた時に本棚でみつけたものです。実は年に数回しか上映されないのですが「with...若き女性美術作家の生涯」として映画化もされています。内容は

自己紹介兼図書紹介

法文学部 人文学科

学生アルバイト 阿部 暢子

著者である佐野由美さんがネパールのパタンにある貧困層の子供たちが集まる小学校でボランティアの美術教師として赴任した際の絵日記です。彼女がパタンで感じた喜びや苦悩、生きる空間の違いからくる戸惑いなど、負の方面ともとられる側も正直に書かれています。差別や病氣、宗教や文化からくる意識の違いなど、私からしたらはつきり口に出しにくいことまで正直に書かれているこの本はある意味教科書みたいなものですね。素直に正直に、なんてなかなかできないことですから。妬ましいほどまっすぐな女性の生き様と、最後のあとがき部分では涙があふれます。

読んでから数年たった今でも、ふとした瞬間に思い出して読みたくなります。心に残る、というよりも、自分の生活において模倣したい生き方を探るための本かな、と思っています。だから、ただ心に残るだけではなく実践してみないと……なんて意気込む私からの推薦図書でした。

「パタンの空より—

ネパール滞在日記」

佐野由美絵・文

シーズプランニング, 2001

現在注文中

「神を見た犬」

ブツァーティ著；関口英子訳

光文社，2007

請求記号：080/KO/A72-1

所在：中央館 3階-文庫・新書

犬にまつわる「笑い」話

法文学部 人文学科

学生アルバイト 高橋 亮

古典＝「古い話」といった考え方は、「古い」という言葉があくまで時間的なものに限られている場合にのみ正解となる。間違っても、「遅れている」や「昔の人の読み物」といったレッテルを貼ってはいけない。なぜならば、古典とされる作品はそれが古典と称される程の長きに渡って読み続けられてきた名作であるはずなのであり、そこには時の流れに左右されない、人間の本質に迫るような深淵なテーマ性が含まれていなければならないからである（多少、それらとは意味合いの違う古典作品もあることはあるのだが）。

そして、こうした論理においては、『神を見た犬』も例外ではない。そればかりか、この作品は一般常識としての「堅苦しい」古典作品に留まらず、笑いさえも読む人に与えるのである。

自分達が鼻で笑い、冷たい目で見下し、舌を突き出していたような、取るに足らないものであったはずの存在。だが、それは目に見えない不可思議な力を突き付けはじめ、やがては無視できない位の神秘性を帯びてゆく。そんな相手を前にして、人々は慌てふためき右往左往し、

同じ考えだったはずの他人の目を気にしつつも、ちやっかりと宗旨替えを図り出す。しかし、そんな人間達の浅はかさを嘲笑うかのような、あらゆる全てのものをひっくり返してしまうラストシーン。これはもはや、ブラックジョークに溢れた良質なコメディと言っても過言ではない。

だが、改めて内容を詳しく読み返してみたならば、そこにあるのはただの「笑い」ではないと思えてくるだろう。特定の集団における傾いた共通認識と排他性、現状に対する頑迷なまでの頑なな拒否、権力への迎合と卑屈な自己中心主義。そう、ここで笑いの対象となっているのは、国や時代を遠く隔てた何処かの誰かではない。舞台の上で悲しいまでの醜態を曝し、嘲笑と苦笑を買い続けているのは、「人間」という名の道化なのである。

あなたはこの作品を読んで、笑い以外の何かを感じ取れるだろうか。もし、そうであったならば、近くにある鏡でも覗きこんでみるといい。もしかしたらそこには、本の中にしかないはずの、村人の一人が映っていると分かるかもしれない。



「百匹目の猿」

船井幸雄著

サンマーク出版, 1996

請求記号: 304/HU

所在: [中央館2階2閲覧室](#)

人は常に何かを思いながら生きています。何を思うかで世の中が少しずつ変わってくるとしたら、人間一人の思いは、何かを作り出す力を持っているかもしれません。宗教では、思いを溜めていくかのように祈る行為が繰り返し行われていることを推察すれば、思うことは人の力の中でも最たるモノだと思えてきます。

宮崎県幸島にいる猿は、1匹がサイマイモを海水で洗って食べるようになり、それが群れに広がっていったそうです。その後、離れた大分県高崎山の猿にもイモ洗いが見られました。イモ洗いの数が臨界値を超えるとその場所で広まるだけでなく、遠く離れた場所にも自然に伝わる現象を科学者のワトソン氏が「百匹目の猿現象」と名付け発表し広く世に知られるようになりました。

「百匹目の猿」は、勉強やスポーツにもコツがあるように生きるにもコツがあるという面白い内容になっています。そして、生きるコツを理解し、人間性を高めようと思う1匹となり臨

開架より

本館情報サービスチーム

岡田 由里

界値(100匹)を目指していこうと訴えています。たくさんの方が思うことの力がどんな現象を起こすのか、楽しみな1冊です。

人はある時間くように思うモノもあれば、思い続けて自分の信念になっているモノもあります。思いが重なって深くなっていくと、どうなるのでしょうか？

「生き方」は、日本航空を立て直している稲盛和夫氏を書いていて、同氏著の「働き方」とともに多くの人に読まれています。一生懸命に考え、思い続けていくとどんなことが起こってくるのか。読み進めていくと、経営者として多岐に亘る経験をしてきた人が書く内容に、思わず納得してしまうことでしょう。

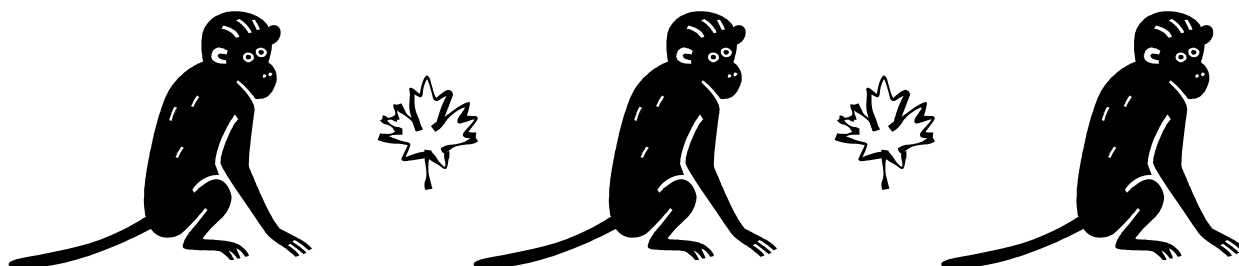
「生き方」

稲盛和夫著

サンマーク出版, 2004

請求記号: 159/IN

所在: [中央館2階2閲覧室](#)



「武士道シックスティーン」

蒼田哲也著 文藝春秋, 2007

請求記号: 913.6/HO

所在: [中央館 3階1閲覧室](#)

爽やかな化学反応

医学部分館情報サービスチーム

山本 愛

主人公は、香織と早苗の女の子2人。彼女たち2人交互の語り口で、物語は進んでいきます。この2人が、まあ対照的な2人で・・・。

1人は、日本舞踊をやめて中学から剣道を始め、センスがあるのか徐々に上手になる子、1人は幼い頃から剣道に打ち込み、圧倒的なまでの力と技で勝ち進み、普段の生活も剣道ありきで進める子。2人ともちょっと「こんな高校生いないよね」って感じのする物語ならではの主人公でしょうか。早苗の方が比較的、普段の生活は高校生らしいと思われそうですが。そんな彼女たちが会うことで、お互いに化学反応が起こっていきます。

これはむしろ現役の高校生より、高校時代が過ぎた人に何か見えてくる物語な気がします。

「ああ、あった、こんな感じ。」部活動、特に運動系の部に入っていた人には、よりいっそうわかるところかと思えます。かくいう私もその1人です。日々がびっくりするくらい部活中心に回って、その中から様々な出来事が起こり、将来について、人生について悩みます。答えは見つかる場合ばかりではありません。

この物語の中では、特に「勝負」というもの

について大きく出てきます。早苗は、勝負にこだわらない、でもこの先の人生、勝負が必ずついてくることがわかっていて、感じている矛盾。香織は、勝負にこだわり過ぎて、日々を走りぬけてきたが、ささいなきっかけでなぜかその道に疑問を感じ何も手に着かずに起こる迷いと焦り。最後は、2人とも答えのヒントといえるものを探し当てます。そんな日々が剣道を通して語られていきます。

剣道のルールは、わからなくても大丈夫です。何とか読み進められます。読み終えた後、とても爽やかな気持ちになれます。それは、なぜなのでしょう？最後に一応の結論が出て、終わり方がもやもやとしないからでしょうか？

しかし、「シックスティーン」を読み終わると続きが読みたくなります。「セブンティーン」「エイティーン」とシリーズになっています。こちら2冊もともに図書館に所蔵しております。

ちなみに、この作品は、映画や漫画にもなっています。こちらでもよいのかもしれませんが、2人の語り口の違いで、小説の方が、より対照的な部分が際立つ感じがします。



新規収蔵「三輪田米山六曲一双屏風」

教育学部教授 三浦 和尚

このたび愛媛大学図書館に、学長の特別な配慮により、愛媛の書家、三輪田米山の六曲一双の屏風が収蔵された。本年12月11日には、第2回三輪田米山展記念講演会にあわせて、お披露目の会が開かれるところである。

いうまでもなく、三輪田米山は、幕末から明治にかけて、伊予松山の日尾八幡神社の神主として、またそれ以上に書家として活躍した人物である。

その作品は、今日書道の世界でも、近代書のさきがけ、豪快・奔放、優れた造形性といった形容をもって極めて高く評価されている。ここ数年のうちでも、千葉県成田市、大阪市、久万高原町、松山市で大規模な米山展が開かれ、また平成24年1月11日からは、愛知県美術館での米山展も開催される。

愛媛大学では、教育学部の書道の教授であった三宅武夫先生、浅海蘇山先生(ともに故人)、さらに続く菊川國夫先生らのご尽力で、米山の研究がすすめられ、今日愛媛大学は、米山研究に欠かせない存在となっている。それは例えば、浅海蘇山先生の奔走によって愛媛大学図書館に収蔵された「米山日記」(300冊余りのうち、202冊を収蔵)にも象徴的に示されているところである。また、図書館2階の「米山コーナー」も

米山関係の書物が多く集められ、極めて充実している。

さて、今回の屏風は、松山市の旧家に長く保存されていたものである。米山に関心をお持ちの方から情報をいただき、縁あって愛媛大学図書館に収蔵されたのは、所有者・紹介者ともに、「米山に力を入れている愛媛大学に収蔵されるのであれば安心」というお気持ちを持っていただけたことが大きい。先達のご尽力がこういう形で力になっていくことがよくわかる。

屏風はきちんとした桐の箱に入れられており、保存状態は極めてよく、作品そのものは無傷と言ってよい。作品一枚が全紙の大きさであるから、屏風一曲は畳一枚を少し小さくしたくらい大きさになる。それぞれ漢字2字が配置されている。それが12曲であるから、並べたときの迫力は満点である。

屏風の左右は不明であるが、「清心・坐忘・嘯月・汲古・篤雅・無為」「酔花・高德・心酔・好古・飲楽・有終」と記されている。

こういった地域の文化の保存、研究も、愛媛大学の地域との交流の姿である。これら地域の文化財を有効に活用していくことが、課せられた使命であろう。

三輪田米山展記念講演会「米山 石文・幟探訪」

平成23年12月11日(日) 13:30~15:30

愛媛大学城北キャンパス内(松山市文京町3)グリーンホールにて開催予定です。

詳しくは <http://www.lib.ehime-u.ac.jp/NEWS/koenkai2011.html> に案内があります。

ここで紹介された六曲一双屏風、この講演会でお披露目された後、写真を図書館HPで公開予定ですが、実物を是非この機会に御覧ください。お問い合わせは089-927-8833まで。

報

告

ブックハンティング2011

実施場所 ジュンク堂書店

実施日時 平成23年6月6日、7日、8日(3日間)：17:30～19:30

図書館にこんな本があったら良いのにと考えたことないですか？学生さんと実際に書店に出かけ、欲しい本をまとめて100万円分選んでもらおうという企画を今年も実施しました。参加者からは、「たくさん本を買って楽しかった」等の感想がありました。

選定図書のうち、図書館で既に所蔵している本24冊を除く343冊が購入されました。中央図書館については、7月下旬から9月上旬まで2Fミニ展示コーナーで展示後、閲覧室に配架、医学部分館でも一定期間展示後配架、農学部分館では今年度中は新着図書コーナーに設置しています。



<ハンティング中の学生>



<ハンティング中の学生>



<展示風景>

報
告

大学祭2011

図書館クイズラリー 絵本&洋書ハンドメイドコーナー

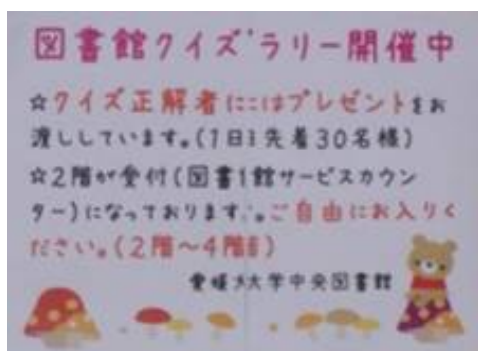
実施場所 中央図書館内（主に2階）
実施日時 2011年11月12日(土), 13日(日) 午前9時半～午後5時
参加者 108名（2日間）

大学祭にプレゼント60個を準備して、クイズラリーを開催しました。
図書館の絵本と洋書を集めて特設コーナーも作りました。

通常の図書館利用者以外に、午前中より親子、孫と祖父母、中高校生の友達同士などいろいろな方々が来館され、クイズラリーを楽しんでいらっしゃいました。絵本や洋書のコーナーも熱心に読んでいらっしゃいました。

🔑クイズの問題を見ることができます🔑

挑戦してみてください！→ http://www.lib.ehime-u.ac.jp/NEWS/gakusai2011_quiz.pdf



図書館サポーターの★つれづれ活動記録★

こんにちは！図書館サポーター、通称「LS」です♪
今回、私たちがどんな活動を行っているのか、紹介していきます。

★図書館サポーターって何？

学生目線で、よりよい図書館づくりや、本と親しめる空間づくりを目指して活動している団体です。普段は、中央図書館、農学部分館での図書館業務のお手伝いをしています。他にも、情報誌「月刊ひよこ」の作成や、オススメ本の紹介をえています。



今年度は、こんなイベントも実施しました！

★「春の古本市」開催！！

2011年5月9日～13日の5日間、中央図書館2Fのスペースをお借りして、本の無料配布をしました。これを機に、本を読む人や図書館利用者が増えれば嬉しいなと思い、行った結果…配布した本の数、なんと1200冊！

5日間という短い期間でこれだけの本がなくなったことに驚きでした！多くの方が足を運んでくださり、大盛況に終わりました。ありがとうございました（^o^）



これだけじゃ終わりません！
今後の図書館サポーターの活動は…？

★展示コーナー

中央図書館2F、新着図書本棚の横で、「特集コーナー」をしているのを見たことありませんか？今回、図書館サポーターは、そこをお借りして、学生目線の展示コーナーを行うことにしました！まだ開催日は決まっていますが、着々と準備は進んでいます。内容に関しては、見てからの楽しみです♪もし見かけたら、気軽に立ち寄ってみてくださいね！



いかがでしたか？図書館サポーターがどんな団体なのか、知っていただけでしょうか？
これからも、私たちは様々な企画、イベントに挑戦します！
「こんな企画あったらおもしろそう」「あんなイベントなら参加したい」という希望があれば、ぜひご連絡ください。ブログ、HPもやっているので、のぞいてみてください（≧▽≦）

CiNii リニューアルのお知らせ

11月9日、CiNiiに新しく、「CiNii Books」が加わりました。今までの「CiNii」は「CiNii Articles」となり、論文と図書の両方を検索できるようになりました。

【CiNii Books の特徴】

- 図書だけでなく CD や DVD などの所蔵情報も分かります。
- 大学図書館の各館 OPAC にリンクが張られているので、利用可かどうかをすぐ確認できます。また、大学図書館の所蔵だけでなく、「カーリル」等にもリンクしており、欲しい本が国会図書館や公共図書館に所蔵されているのかも分かります。
- CiNii Articles に本文が収録されていれば、リンクをたどり本文まで表示できます。
- 各種ウェブ API (Application Program Interface) を提供しており、他のシステムやウェブサービスから利用することができます。



CiNii Books: <http://ci.nii.ac.jp/books/>



CiNii Articles: <http://ci.nii.ac.jp/>

また、「CiNii Articles」にも「全文検索」という新しい機能が追加されています(ベータ版)。

CiNii に収録された本文 PDF (外部リンクのものは含みません) からもキーワード検索ができるようになりました。

検索の方法は今まで通りですが、「CiNii Books」にリンクされているので、目当ての論文を探し出したあとに収録誌がどこにあるかを探すのにも便利になりました。

さらに幅広い検索が可能になった CiNii を

どんどん使ってみてくださいね。

図書館日誌

4月4日	平成23年度新任教職員研修 ～5日
21日	第59回中国四国地区大学図書館協議会総会（ホテルモナーク鳥取）
22日	第38回国立大学図書館協会中国四国地区協会総会（ホテルモナーク鳥取）
28日	有期契約職員（事務系）初任者研修
5月9日	図書館サポーターによる古本市（図書館2F 特設コーナー）～13日
20日	第82回日本医学図書館協会通常総会（愛知学院大学）～21日
24日	第1回図書館委員会
25日	インターンシップ受入担当者事前研修（5月31日）
6月1日	平成23年度講師養成研修 ～3日
2日	スタッフポートフォリオ作成ワークショップ
6日	しげのぶ特別支援学校生徒2名・職場体験 ～10日 ブックハンティング（ジュンク堂書店）～8日
8日	平成23年度メンタルヘルス講習会
9日	次世代リーダー養成研修（香川大学）～11日
15日	四国地区国立大学法人等共同初任者研修（愛媛大学）～17日
16日	第58回国立大学図書館協会総会（グランドプリンスホテル広島）～17日
17日	平成23年度教科書展示会 ～30日
20日	教育学部附属特別支援学校生徒2名・実習 ～7月1日
23日	図書収集事務委員会
7月4日	大学図書館職員長期研修（筑波大学）～15日 医分館：第1回図書・情報委員会
21日	愛媛地区大学図書館協議会（松山大学）
27日	平成23年度会計系実務研修
8月4日	次世代リーダー養成研修（愛媛大学）～6日
18日	インターンシップ研修生受入 ～8月31日
19日	平成23年度著作権セミナー
22日	中央館蔵書点検 ～26日
23日	愛媛県図書館講習会（愛媛県立図書館）
24日	目録システム講習会〔図書コース〕（高知大学）～26日
30日	平成23年度図書館等職員著作権実務講習会（京都大学）～9月2日
31日	目録システム講習会〔雑誌コース〕（広島大学）～9月2日
9月7日	学務系職員養成プログラム ～8日
12日	ILLシステム講習会（岡山大学）
14日	医分館：第2回図書・情報委員会
15日	日本医学図書館協会平成23年度第1回評議員会（JMLA事務局）

	第4回中国四国九州沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー（九州大学） ～16日
22日	福利・共済実務勉強会
26日	法人文書管理研修会
27日	高等教育機関における安全衛生研修
10月1日	農学部分館臨時休館
4日	大学図書館職員短期研修（京都大学）～7日
5日	研究支援・社会連携系実務研修 ～6日
6日	農学部分館運営委員会
13日	第52回中国四国地区大学図書館研究集会（愛媛大学）～14日
18日	学術情報リテラシー教育担当者研修（大阪大学）～21日
25日	日本医学図書館協会平成23年度第1回地区会事務局連絡会議（JMLA事務局）
27日	図書収集事務委員会
28日	国立大学図書館協会中国四国地区実務者会議（香川大学）
29日	農学部分館臨時休館
11月3日	中央図書館臨時休館
9日	大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルI）～11日
16日	松山大学図書館情報学の講演及び研究会 教育学部附属特別支援学校生徒1名・実習 ～12月6日
17日	日本医学図書館協会中国四国地区会総会（鳥取大学）～18日
24日	次世代リーダー養成研修（徳島大学）～26日



愛媛大学図書館「図書館だより」第91号 2011年12月1日発行

編集：館報編集委員会

発行：愛媛大学図書館 〒790-8577 松山市文京町3番 TEL (089)927-8845